

年間第 25 主日・A 年(14.9.21)

「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに呼び求めよ、近くにいますうちに」

生活に流されないで神に向かう

今日の第一朗読は、第二イザヤと呼ばれる箇所（40 章から 55 章）の最後の章からとられております。そこで、この箇所が書かれた時代背景について、少し振り返ってみましょう。

イスラエルの歴史において、50 年にわたる捕囚時代のことです。当時の占領政策は、敗戦国の王をはじめ主^{おも}だった者たちが、先勝国に強制移住させられたのです。当時のオリエン特世界に新たに台頭した新バビロニア帝国によって、ユダ王国は、紀元前 587 年にエルサレムを攻略され、イスラエルの王を含む主^{おも}だった者たちが、首都バビロンの近郊に三回にわたって移住させられた時代です。

ですから、イザヤ書の 40 章から 55 章は、この苦難に満ちた時代に、イザヤの弟子と考えられる一無名の預言者によって編纂されたと思われます。したがって、捕囚民に慰めだけでなく希望をも与えるメッセージとなっています。

とにかく、自分たちがそのような試練を体験せざると得ないのは、何よりも神に対して犯した自分たちの罪の結果であるとの自覚を持つようになったようですが、まさに、自分たちの信仰が根本から問われる体験でもあったようです。

そこで、この預言者は、まさに信仰の根幹に触れる基本的な生き方を、叫ぶ必要があったのです。実は、今日の個所の章は、次のような呼びかけで始まっています。

「さあ、渇いている者は誰でも、
水のあるところに来るがよい。

．．．

なぜ、お前たちは、糧にならないもののために金^{かね}を払い、
腹を満たさないもののために労苦するのか。

わたしに聞き従い、善い物を食べよ。

美味^{びみ}な食べ物に、お前たちの魂は喜ぶだろう。

耳を傾け、わたしのもとに来るがよい。

聞け、お前たちの魂は喜ぶだろう。

耳を傾け、わたしのもとに来るがよい。

聞け、お前たちの魂は生きる。」（イザヤ 55.1-3b）

まず、最初に言われている水ですが、ユダヤ教の教えでは、神の教え、神のことばの象徴と受け止められています。

また、ようやく 50 年ぶりに故国へ帰ることが出来という預言者の呼びかけにもかかわらず、お金を使ってでも捕囚地に残りたいという捕囚民もいたようです。ですから、**なぜ、お前たちは、糧にならないもののために金^{かね}を払い、腹を満たさないもののために労苦するのか。**と鋭い忠告を受けているのではないのでしょうか。

そのような試練の時代であればなおさらのこと、わたしたちは神からいのちのことばをいただく必要があるのです。ですから、預言者は、叫びます。

わたしに聞き従い、善い物を食べよ。美味^{びみ}な食べ物に、お前たちの魂は喜ぶだろう。

ここで言われている魂とは、まさに人間存在全体を表していると言えましょう。ですから、捕囚前のユダ王国で活躍したエレミヤも、自分のみことば体験を、次のように感動的に分かち合ってくれます。

「あなたのみことばが、見出されたとき、
わたしはそれをむさぼり食べました。

あなたのみことばは、わたしのものとなり

わたしの心は、喜び躍りました。」（エレミヤ 15.16）

みことばこそ、特に苦しみの中にあるときに、新たな希望と勇気を与えるだけでなく、心の底から湧き上がってくる喜びに満たしてくれるのではないのでしょうか。

ですから、エリザベトも、みことばこそ、聖母マリアの幸せの源であることを、声高らかに褒め称えたのであります。

「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」（ルカ 1.42-45）

あなたもぶどう園に行きなさい

ところで、今日の福音ですが、ぶどう園のたとえで、イエスご自身が、わたしたち一人ひとりを福音宣教ために派遣されていることを、励ましてください。そして、父なる神が、必ず相応しい報いをくださることを、強調なさっておられます。

実は、ヨハネ福音によれば、イエスは、最後の晩さんの席上、ぶどうの木とその枝のイメージで、福音を伝えるためにわたしたちを派遣なさることを、切々と語られたのです。

「わたしはぶどうの木であり、
あなたがたはその枝である。
人がわたしのうちに留まっており、
わたしもその人のうちに留まっているなら、
その人は多くの実を結ぶ。
わたしを離れては、あなた方は
何もすることができないからである。

．．．

あなた方がわたしを選んだのではなく、
わたしがあなた方を選んだのである。
わたしがあなた方を任命したのは、
あなたがたが出かけていき、
実を結び、その実が残るためであり、
また、あなた方がわたしの名によって
父に願うことは、何でも
かなえていただけるようになるためである。
あなた方が互いに愛しあうこと、
これをわたしはあなたがたに命じる。」（ヨハネ 15.5,16-17）

今週もまた、派遣されたそれぞれの場で、福音を伝えることが出来るよう共に祈りたいと思います。